

チャンス・チャレンジ・チェンジ

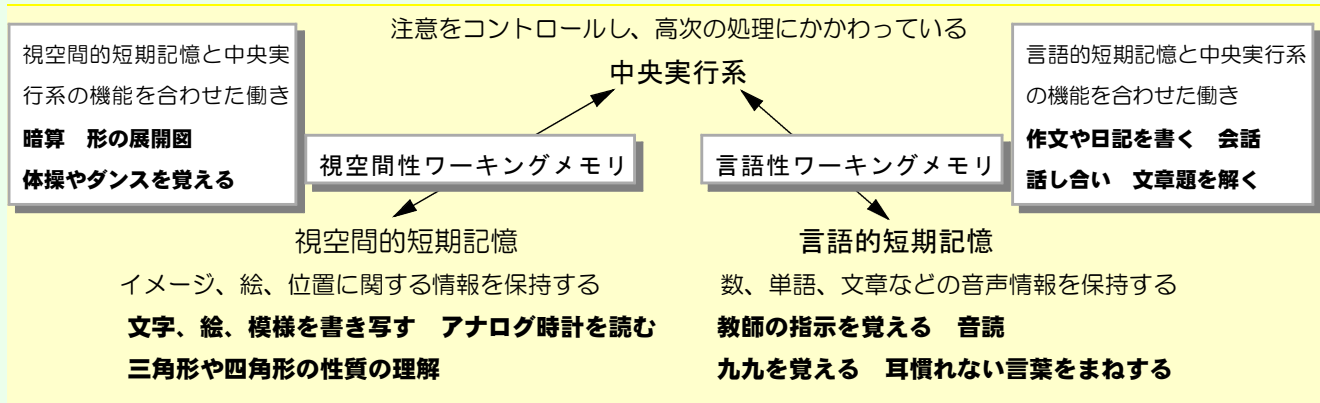
秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



ワーキングメモリを高める支援



- 1 ワーキングメモリ⇒あらゆる学習活動（読書、作文、計算、推論、会話等）を支える重要な力
 - ・情報を一時的に頭の中で保持し、同時に操作する能力のこと。頭の中の小さな「メモ帳」。
 - （板書を一時的に記憶しながらノートに書き写す 相手の言葉を聞いて理解しながら応答する）**
- 2 ワーキングメモリが弱い子どもの困り感（学習が遅れ気味になる 行動面で誤解が生じる）
 - ・長い指示に従うことが難しい、聞き間違いや聞き漏らしがある、板書がうまくできない、漢字が覚えられない、読みがスムーズに行えない、暗算や九九でつまずく、作業の進行状況が分からなくなり途中で投げ出す、話し合いに参加できない、忘れ物やなくし物が多い、活動中に絶えず支援を受ける、注意の集中・持続が難しい、拳手が少ない、うわの空になることが多い、不注意なミスをするetc.
- 3 ワーキングメモリのモデル



4 ワーキングメモリを高める支援

- (1) 集中できる環境を用意する。（黒板付近の掲示物の精選、机には必要な物だけ置く等）
- (2) 前振りをしてから、短く簡潔に、単純な表現を行う。適宜、指示を丁寧に繰り返す。
- (3) 覚えなくてはならない情報量を減らして、順を追って伝える。
- (4) 言語的な指示に、動作を伴わせて覚えやすくする。
- (5) 情報に意味をもたせり、子どもの知っていることと結び付けたりする。
- (6) 言語情報を声に出したり、心の中で繰り返したりしてリハーサルする。
- (7) 大事なことは、メモ用紙や付箋にメモする習慣を付ける。
- (8) 子どもの得意な記憶方法を利用する。
 - 「休」⇒人が木でやすむ（言葉で意味付ける） 人+木=休（視覚的に示して意味付ける）
- (9) トランプの神経衰弱やカルタ取り、語呂合わせで数字を覚える、暗算で計算する、言葉の逆読みなどをゲーム感覚で行う。



5 ワーキングメモリを考慮した授業づくり

- (1) 前時の内容を振り返り、本時の授業の流れを視覚化して見通しをもたせる。
- (2) 本時の目標を明確にする。（子どもを主語にして、「～する」と表現する）
- (3) 授業を短いユニット（15分前後）に分けたり、学習の流れを教科によってパターン化したりする。
- (4) 必要な子どもに個別に指示をする。大切な指示は文字で示す。指示代名詞は使わない。
- (5) 子どもの発表後に、簡潔にまとめたり分かりやすい表現に言い換えたりしてポイントを整理する。
- (6) つまずきそうな場面で、繰り返し指示を出したり、ヒントを与えたり、友達の発言に注目させたりして子どもの気付きを促す。
- (7) 子どもたちがよく知っている事例や具体物を使い、説明する。
- (8) 記憶を補うツールを活用する。（九九表、計算手順表、単語帳、ヒントカード、ICレコーダー等）

